

液化室だより

東大物性研究所 <http://www.issp.u-tokyo.ac.jp/labs/cryogenic/>

高圧ガスの価格上昇!?

平成19年4月頃から市場では、ヘリウムガスやアルゴンガスなど産業用ガスの価格が上がっていましたが、東京大学ではヘリウムガスの納入価格は据え置かれていました(平成18年度まで毎年上がっていた)。しかし、このところの原油価格高騰により、平成20年4月1日から産業用ガス等の価格が2割から3割ほど上昇することになりそうです。

前述のように、平成20年度は東京大学でもヘリウムガス、液体窒素、高圧ガスボンベ等の納入価格の上昇が見込まれ、それに伴い寒剤供給価格を上げざるを得なくなります。

液体窒素の供給価格は、納入価格に自然蒸発分や供給ロス、供給設備の整備費用等を上乗せした価格となっている為、納入価格の上昇=供給価格の上昇となります。それに対し液体ヘリウムの供給価格は、6割程度が原料ガスの価格であり、しかもガス損失分のみの購入なので、回収率を上げることで、供給価格の上昇をある程度抑えることができます。しかし、現状の回収率(70~80%)では大幅な価格上昇を覚悟しておいて下さい。皆様のご理解とご協力をお願いします。主要なガス会社の情報は下記を参照のこと。

大陽日酸 <http://www.tn-sanso.co.jp/jp/pdf/20080211release.pdf>

JAG <http://www.japanairgases.co.jp/news/pressrelease2008/press0226.html>

新人講習会について

ホームページでは既に告知してありますが、毎年行っている新人講習会を開催します。この講習会は、**柏キャンパス**で寒剤や高圧ガスボンベ等を**初めて使用する人**を対象にしたもので、受講しなければ寒剤等を取り扱うことは出来ません。受講忘れの無いように十分注意してください。

講習会は内容により2種類に分けられ、**高圧ガスボンベのみ使用する方**を対象とした「**高圧ガスボンベ利用講習**」と**寒剤や高圧ガスボンベを使用する方**を対象とした「**寒剤利用講習**」になります。

両方の講習を受講する必要はありませんが、寒剤を使用するのに「高圧ガスボンベ講習」を受講した場合には、再度「寒剤利用講習」を受講する必要があります。

寒剤を利用するかどうかが不明な方は、寒剤利用講習の受講をお勧めします。

[寒剤利用講習]

<http://www.issp.u-tokyo.ac.jp/cryogenic/kosyu/>

[高圧ガスボンベ利用講習]

http://www.issp.u-tokyo.ac.jp/cryogenic/kosyu_gas/

問い合わせ [E-mail:ekika@issp.u-tokyo.ac.jp 内線:63515]

JAGの値上げ対象製品と改定率

対象製品	改定率
酸素・窒素・アルゴン	10~20%
炭酸ガス・水素	10~30%
ヘリウム、クリプトン、ネオン	20~30%
キセノン	60%以上
「ピュアレーザ」などのレーザーガス	成分により、異なる
特殊材料ガス	ガス種により、異なる

ジャパン・エア・ガシス
セバレットなど各種ガスを3月1日出荷分から値上げ
ジャパン・エア・ガシス
(フロンソー、ジャコウ社製)は、酸素、アルゴン、炭酸ガス、水素、ヘリウム、レーザガス、レーザガス、特殊材料ガス、各種混合ガスを3月1日出荷分から値上げした。ガス別の上げ幅は表の通り。
「ピュアレーザ」(アター)混合ガスも、その成分に値上げの対象ガスが含まれていれば、その比率に応じて値上げ

高圧ガス工業(中川昭社長)は、アセチレン及び酸素、窒素、アルゴン、炭酸ガスのシリンドラ、ローリー売分について4月1日よりアセチレン渡りレバースでの値上げを行う。改定率はアセチレンが250円/kg、酸素、窒素が50円/kg、アルゴン及びアルゴン系混合ガスが100円/kg、炭酸ガスが30円/kg、ローリー分は10%以上となっている。アセチレンについて同社は2004年4月に原料カーバイドなど原料高騰に伴い、230円/kgの価格改定を実施したが、前号でも既報の通り、

同社の発表資料によると、原料とエネルギー価格の高騰、配送コストおよび人件費の上昇が各種ガスの製造・物流費用の増加を招いている。
高圧ガス工業
4月1日より値上げ
アセチレン、酸・窒素、アルゴン、炭酸ガス
主原料費のさらなる高騰でカーバイドの値上げが4月より実施されることとなっている。加えて副資材であるアセチレン、物流費も原油価格増で高み、鉄製品の大幅な値上げによる容器調達経費も上昇している。こうした原料・調達コスト上昇局面に対し、アセチレン生産はさらに減少、人件費や保安経費も従来に増して重くのしかかっている。さらに耐震設計基準の改定に伴う老朽化設備の更新、耐震補強工事等の設備投資を実施するなど保守コストは上昇し、採算性を圧迫している。

ガスレビューNo. 644より